

人工授精から肥育出荷までの完全一貫経営

(長野県：牧舎みねむら)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
	○		○		農場HACCP

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- 所在地：長野県東御市
- 代表者：峯村 誠太郎
- 飼養頭数：260頭（繁殖雌牛85頭、育成・肥育牛175頭）
- 飼料作物作付面積：牧草5ha
- 雇用者数：家族3名、パート3名
- HP等：<http://cowshed-minemura.com//>



自家産黒毛和牛肉加工品

<取組について>

○ 概要

- 人工授精から肥育出荷まで完全一貫経営を行っており、飼養管理の技術向上を図りつつ、自ら生産した牛肉から製造された加工品を販売。
- 信州プレミアム牛肉を生産。自家産黒毛和牛肉を100%使用した、オリジナル加工品（ビーフジャーキー、ハンバーグ等）も販売。
- 堆肥は、副資材に籾殻を使用し、仕切りのない作業効率の良い堆肥舎で堆肥を生産。生産された堆肥は、地域の水稻や高原野菜に利用。堆肥の品質管理のため1～2年に1回分析機関に成分分析を依頼。
- 稲わらは堆肥との交換と購入により一年分を周辺地域から確保。
- 地域の活性化を図るため、近隣の若手農家とも積極的に連携し、循環型農業を推進。
- 平成28年に農場HACCP認証を取得。
認証を取得するまでの3年間、家畜保健衛生所・地方事務所（現 農業農村支援センター）・管理獣医師・JA・飼料会社による「HACCPチーム」を結成し、飼料の原材料から備品管理、牛の出生から出荷までの全工程の危害要因を明文化するなど農場HACCP認証の取得を支援。

○ 今後の課題

- 配合飼料価格の高騰など、社会情勢の変動に大きく左右されない、持続可能な経営の確立。
- 和牛を次世代へ繋ぐための人材確保。
- 6次産業を生かしたショップの出店など。

